

黎明

題字は、校歌（玄閣掲額）より



令和4年
11月28日（月）

師走を前にして ～先人の生き様から学ぶ～

期末テストを終え、生徒たちは東の間の解放感を味わったことと思います。学校は来月の三者懇談会（十四～十六日）に向け、忙しい時期を迎えています。

さて、先日（十六日）、三泗地区内外の先生方にお越しいただき、社会科の研究授業が行われました。二年生歴史（江戸時代）の授業において、「差別は誰が作ったものなのか」という問いをもとに話し合い、権力者が一方的に作りあげたものではないことに気づいていく様子を見ていただくことができました。

ところで、歴史の教科書は、江戸時代だけを見ても、**松尾芭蕉、本居宣長**のちに財閥を築いた**三井家**など、三重県にまつわる人物に関する記述も少なくありません。その一人に現鈴鹿市白子の船頭であった**大黒屋光太夫**（一七五二～一八二八）がいます。

光太夫は、船の難破による漂流の末、遠くロシアにわたり、苦難の果てに帰国を果たした人物として有名です。特筆すべきは、帰国の交渉をするために難解なロシア語を数年かけて**独学で習得**したことです。

そのために彼が行ったことは、ロシア人に対して「エトチョワ（これ何?）」という語句を使って、徹底的に尋ねまわることだったということです。波瀾（乱）万丈の生涯は、教科書の枠を超え、「学ぶとはどういうことか?」を考えるよいきっかけになると思います。

本校においては、水に乏しい扇状地に位置する水沢・小山田地区の先人たちの暮らしを踏まえることは不可欠です。地域の歴史を見落とすことなく、教科書の世界と関連させて学ぶことを大切にしていきたいと考えています。

【江戸時代のくらしのようすについて】

瀬戸用水のこと

三五〇年ほど前、水沢村では日照りが続き、米作りに必要な水が不足して多くの村人が生活に困っていました。庄屋の辻久善（?～一六六七）は、田に水を引く工事をする許可を得るために江戸まで行き、縄やわらじを作って生活費にしながら、三年間も江戸にとどまって何度も頼みました。やっと許可が出たて工事をはじめ、大変苦労しましたが、一六七三年に瀬戸用水が完成しました。瀬戸用水は今でも田畑に水を送っています。 「のびゆく四日市」（市教育委員会）から作成

ため池と「まんぼ」について

当時は、河川からの利水が中心で、特に渇水期には川涸いをして川床をより低くして取水することもあり、それが紛争の種ともなったようです。そのため、多くのため池に水を貯蔵しました。ため池の数は水沢村で十三、山田村は四十を数えました。

まんぼ（間風）は、水不足を解消するため、地下二～十メートルを素掘でトンネル式に横穴を掘り、地下水を集めて農業用水にしたものです。鈴鹿山麓一帯に約三百あるといわれ、和無田村、鹿間村、堂ヶ山村、水沢村、西山村、六名村などでもつくられ、現在も多くの水田を潤しています。世界を見ると、横井戸で地下水を利用するものは、イランやイラクに「カーナート」と呼ばれるものがあります。

「三重の文化」（県教育委員会・「四日市史」（四日市市）から作成

授業を参観して共感する ～「学校日誌」から～

二年生は、「ヒューリアみえ（反差別・人権研究所 みえ）」から講師の先生をお迎えし、メディアリテラシーについて考える講座を受講しました。身近で具体的な事例を通じて、SNSによる情報拡散は、情報の真偽によらず、故意であろうとなかろうと、人権侵害につながることを生徒とともにも再認識しました。

三年生国語では、松尾芭蕉の俳句（「奥の細道」）を味わっていました。ちょうど「五月雨の降り残してや 光堂」の「降り残してや」の意味を考えているところでした。一緒に考えているうちに、朽ちることなく今も輝く金堂の美しさ、それを可能にしてきた営みへの感動が沸きあがってくる思いがしました。

一年生家庭は、食物と栄養についての授業でした。黒板の表には年齢・性別ごとの基礎代謝量や必要なカロリー数がまとめられていました。数量的な情報は説得力があり、しっかりとしたカロリー計算による食生活を肝に銘じました。（十一月十七日）

三年生道徳の教材「ふきのとう」は、保健師の仕事に疲れた主人公が、貧しい患者のために生涯を捧げた恩師・杉浦医師の人生を振り返り、自分を取り戻すお話です。きっかけとなったのが「ふきのとう」の花言葉は、「待望」「真実は一つ」。使命感を貫いた気高い生き様に学び、しっかりと考えが深まりました。

二年生英語、一年生国語はアクティブでした。二年生は、例文のブランクに当てはまる助動詞を考えるゲームを班対抗で行っていました。文意を素早く読み取って推測する瞬発力を楽しみながら養っていました。一年生は、授業のウォーミングアップに、昭和の香りが懐かしい「連想ゲーム」でヒントから冬の風物を次々に出し合い、言葉の世界を広げました。（十一月十八日）

